

# 文明構造論

京都大学大学院人間・環境学研究科  
現代文明論講座 文明構造論分野 論集

Vol.4. 2008  
Kyoto. Japan.

[目次]

【論文】

- 001 失われた悲哀の奪還 小田直史  
— ベンヤミンが捉えたボードレールの相貌 —
- 065 「根源」と「破壊」 小林哲也  
— W・ベンヤミンの『カール・クラウス』 —
- 111 日本人による中国人戦後補償訴訟支援研究 鄭楽静  
— 強制連行・強制労働問題を中心に —

【翻訳】

- 135 『勝負の終わり』を理解する試み(上) 藤井俊之 訳  
テオドール・W・アドルノ

【書評】

- 159 Brian Henderson: Nerve Language 熊谷哲哉

【資料紹介】

- [001] 社会運動資料通信(一) 山元亀次郎関係資料 福家崇洋

## 『文明構造論』バックナンバー

### 第1号 2005年

藤井俊之: 自由と非同一性—アドルノのカント批判を手がかりに—

熊谷哲哉: 光線としての言葉—シュレーバーと自然科学と心霊学—

小田直史: ベンヤミンの「法」と「ことば」について—暴力論読解の手がかりを探る—

野崎恭夫: ヴァイマル共和国時代ベルリンにおける映画文化 (Kinokultur) と映画批評 (Filmkritik) の成立

福家崇洋: 情熱に生きるの悲哀—北原龍雄と『新理想主義』の普通選挙請願運動について—

### 第2号 2006年

小林哲也: ベンヤミンの「政治論」と形而上学—1920年前後の形而上学的思考連関の分析—

程顯: 「台湾民族論」の形成と現在—台湾ナショナリズムへの影響をめぐって—

熊谷哲哉: 「脱男性化」とは何か—シュレーバーと性をめぐるディスクルス—

福家崇洋: 岡悳治と普通選挙運動

### 第3号 2007年

渡辺恭彦: 廣松渉の自我論

ASAI Shoko: Die Wut eines zu spät Gekommenen— Thomas Brussigs Helden wie wir —

熊谷哲哉: 「神經言語」と言語の危機—シュレーバーと世紀転換期文学における言語表現—

小林哲也: ベンヤミンにおける〈理念〉の存在

程顯: 国民党パーティー=ステイト・システムとエスニック・グループ問題

福家崇洋: 一九二〇年代初期日本におけるイタリア・ファシズム観の考察

執筆者紹介 (執筆順)

小田 直史 (京都大学大学院人間・環境学研究科 博士前期課程)

小林 哲也 (京都大学大学院人間・環境学研究科 博士後期課程)

鄭 楽静 (京都大学大学院人間・環境学研究科 博士後期課程)

藤井 俊之 (京都大学大学院人間・環境学研究科 博士後期課程)

熊谷 哲哉 (京都大学大学院人間・環境学研究科 博士後期課程)

福家 崇洋 (京都外国語大学 非常勤講師)

文明構造論 第4号

編集兼発行者 京都大学大学院人間・環境学研究科 現代文明論講座

文明構造論分野 『文明構造論』刊行会

〒606-8316 京都市左京区吉田二本松町 075-753-6667

印刷 北斗プリント社

〒606-0864 京都市左京区下鴨高木町38-2

2008年9月4日